

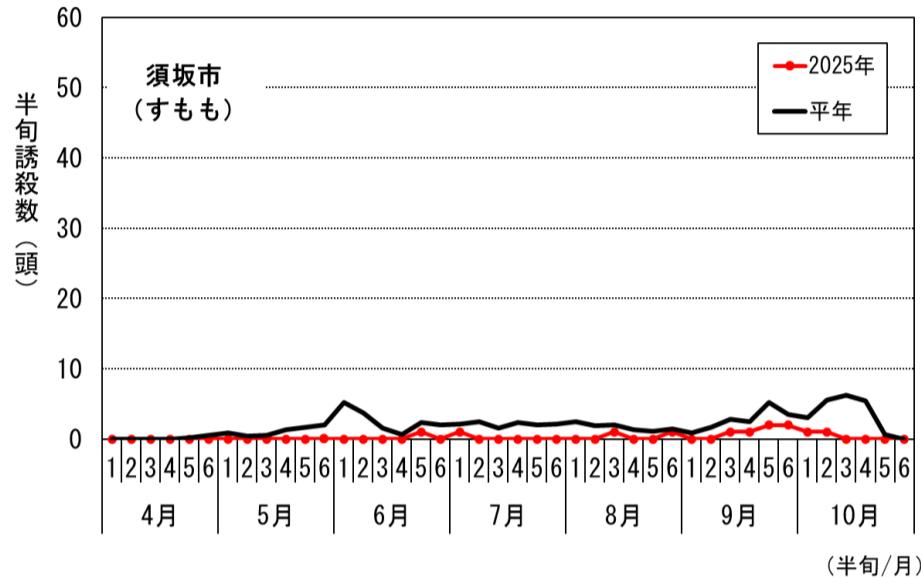
チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

【発生生態と防除のポイント】

- ・年1～2回発生する。
- ・落葉下で越冬し、成虫は山林から果樹園に飛来する。
- ・果樹園へ飛来する時期に殺虫剤を散布する。
- ・次々に新たな個体が飛来するので、発生が多い場合は5～7日間隔で、2～3回散布する必要がある。

○須坂市（病害虫防除部）



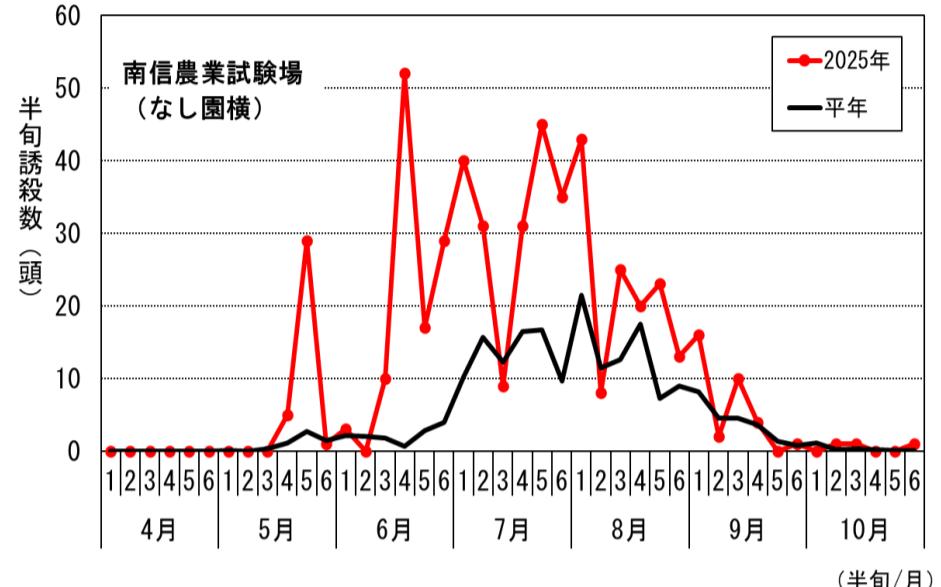
【調査地点】（標高 370m すももほ場）

- ・平年は2015年～2024年の平均値
- ・山際に位置している

【コメント】

- ・例年誘殺数はそれほど多くない。本年も6月後半に若干誘殺が観測され、その後も少ない状況で推移していき、栽培期間の後半に例年同様若干の誘殺の山がみられたが、頭数は少なかった。年間誘殺頭数は平年の1/7であった。

○高森町（県予察ほ 南信農業試験場）



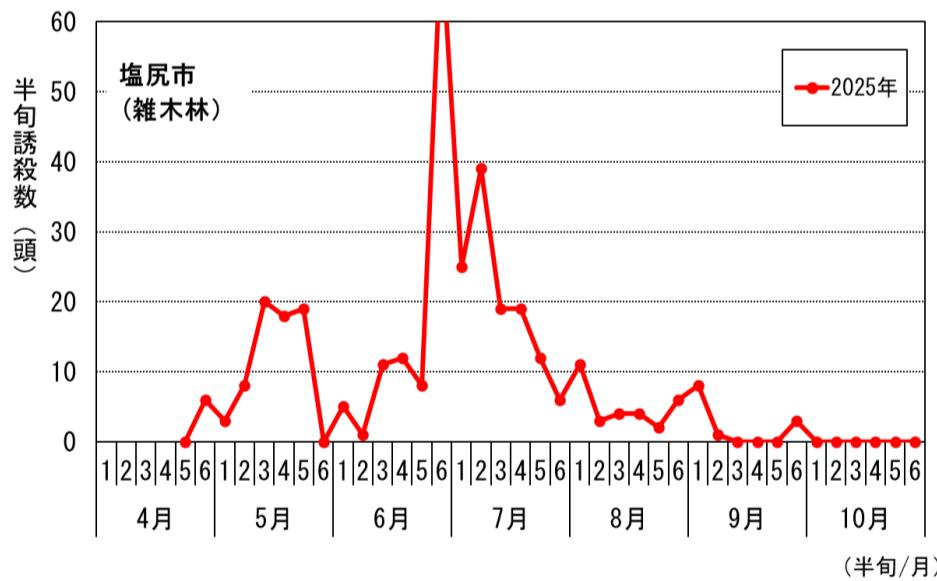
【調査地点】（標高 560m 場内）

- ・平年は2015年～2024年の平均値
- ・なし園に隣接した場所に設置している

【コメント】

- ・本年は5月の下旬に急に誘殺頭数が増加した。一度減少したのち、6月半ばから再び増加し、9月前半まで平年より多い状態が継続しながら誘殺が続いた。年間誘殺頭数は平年の2.5倍であった。

○塩尻市（病害虫防除部）



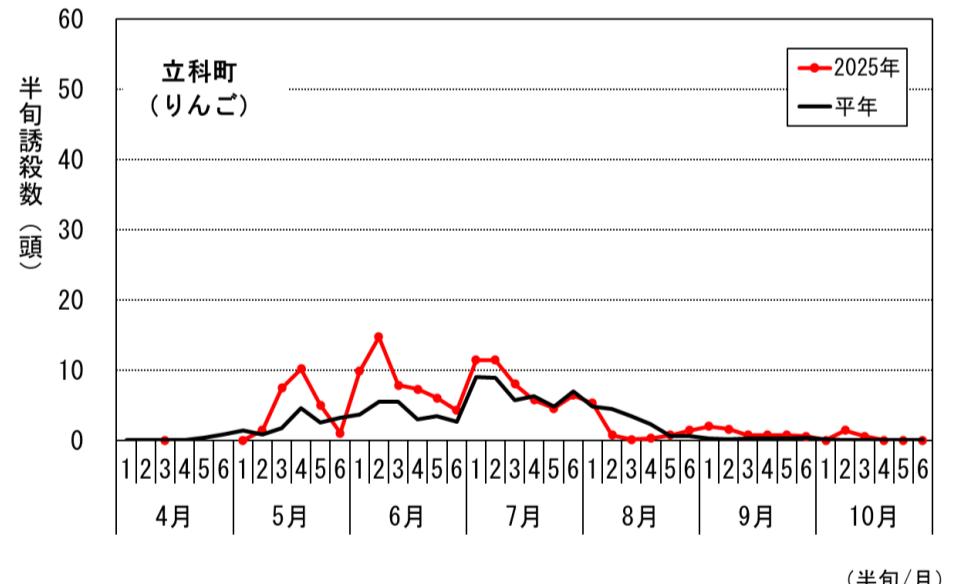
【調査地点】（標高 560m 雜木林）

- ・2025年より観測を開始したため、平年値および前年値なし
- ・雑木林に設置している

【コメント】

- ・カメムシ類の越冬場所に近く、設置してすぐに誘殺が記録された。越冬成虫の誘殺がほぼ終了したあと、6月半ばから再び増加し、6月末にピークを迎えた。その後は徐々に減少していく、生活域が他所へ移動していると推測された。9月中旬以降はほぼ誘殺されなかった。

○立科町（※佐久農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高 670m りんごほ場）

- ・平年は2015年～2024年の平均値。

【コメント】

- ・誘殺消長に増減の波はあるが、5月から7月までは平年よりやや多い誘殺頭数が記録された。8月中旬以降の誘殺はわずかで、ほぼ誘殺されなかった。年間誘殺頭数は平年の1.4倍であった。